こどもの権利に関する条例制定済み道内市町村における周知に関する取組状況

資料４

市町村	条例	周知に係る取組
札幌市	札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例	**◎参加型の取組まで展開** パンフレット配布やホームページ掲載に加え、出前講座や子ども議会の開催により、参加型も含めた周知・普及を実施。
北広島市	北広島市子どもの権利条例	**◎ホームページで分かりやすく基礎解説** ホームページにおいて「４つの権利」や条例構成を分かりやすく解説し、基礎的理解の普及を推進。
石狩市	石狩市こどもの権利条例	**◎月間設定やイベントで集中的に啓発** こどもの権利月間の設定や制定記念イベントの開催により、時期を捉えた集中的な普及啓発を実施。
士別市	士別市子どもの権利に関する条例	**◎行動計画と連動した継続実施** 行動計画に基づく理解促進の取組とあわせ、条例や制度内容の周知を継続的に実施。
奈井江町	子どもの権利に関する条例	**◎子ども版資料あり** パンフレット及び子ども版資料の作成・公開により、対象に応じた分かりやすい普及を実施。
芽室町	芽室町子どもの権利に関する条例	**◎相談先案内までセット** ホームページにおいて「４つの権利」の説明や相談先の案内を行い、理解促進と利用促進を図る。
幕別町	幕別町子どもの権利に関する条例	**◎広報紙・HP・リーフレットで多面的に周知** リーフレットや広報記事、ホームページを活用し、条例概要や権利の考え方について広く周知。

こどもまんなか
こども家庭庁

こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム

こどもの声（「こども若者★いけんぷらす」等で出された意見）

寄り添ってほしくて相談するのだが、**返ってくる言葉は解決しようとする言葉で、寄り添ってくれない**

「悩んでいることがあったら相談できる」というのがこどもにもっとわかりやすく伝わるとよい

学校で相談窓口のことを紙で配られただけだと、**何をどう話していいかわからない**

学校のアンケート結果が親に伝わるのが怖くて、回答を変更するしかなかった
親のこととか気にせずに、安心して相談できることが大事

SNSによる相談は電話相談よりハードルは下がるが、電話の方が相談しやすい人もいる
色々な相談窓口があることが大事

こども目線の課題例

- 利用できる相談窓口について、こどもに十分周知できていない？
- どう相談すればよいか分からないなど、相談窓口の利用にハードルを感じている？
- こどもがどう感じているか、相談を受け止める側が十分に把握していない可能性？
- 相談窓口は、SNSに加え、電話、対面も含めた多様な窓口があることが望ましい？

等

こども家庭庁「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」発足（令和６年11月26日）

１．設立の趣旨

「こどもまんなか社会」の実現を目指し、**大人目線ではなくこども目線で、悩みを抱えるこどもたちが躊躇なく悩みを打ち明けられる環境を作っていく**ため、こども家庭庁に**「こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム」を設置**し、次の取組を進める

① **こどもや支援団体等との積極的な意見交換**
② こどもに関する**官民の相談窓口の実態や相談を受け止める側が留意すべき点の把握**
③ こどもの悩みを受け止めるために**有益な諸活動について、積極的・効果的な広報**　等

（※　こどもの悩みを受け止める場の実態把握・広報事業（令和６年度補正予算案　１億円（新規））

２．構成員

入庁１年目の若手職員や、民間企業・自治体からの出向者などの現場経験者等をはじめ、多様なバックグラウンドを持つこども家庭庁職員が参加（計31名）

▲ プロジェクトチーム発足式で
若手職員らと意見交換する三原こども政策担当大臣

こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチームについて②

こども家庭庁

こどもの悩みを受け止める場の実態把握・広報事業

支援局 総務課

令和６年度補正予算　１億円

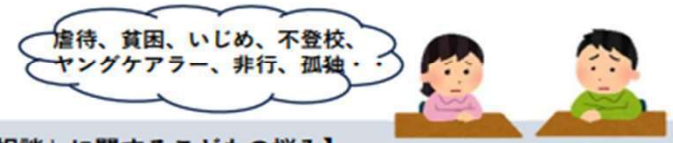
事業の目的

- **様々な悩みをもつ全てのこどもの学校外の相談を受けとめる場について、こどもが利用できる官民の相談窓口等の実態を把握・整理**し、こども、保護者等に対し広報活動を行うことにより、悩みの深刻化、重大化を防ぎ、こども誰一人取り残すことのない、こどもまんなか社会の実現を図る。

事業の概要

１．こどもの悩みを受け止め利用しやすいサービスの検討及び官民の相談窓口等の実態整理

様々な悩みをもつこどもからの相談について、相談窓口が非常に多く、相談先が分かりにくいこと、相談の実態が十分に整理・共有されていないことが課題とされている。このため、こどもの悩みを受け止め、こどもが利用できる官民の相談窓口等の実態を早急に把握・整理する。



【「相談」に関するこどもの悩み】
① 相談先が分からない、調べたら相談窓口も多い、結局どこに相談すればよいか分からない
② 行政や学校（学校関係者）、親には相談したくない
③ モヤモヤしているが、悩みをうまく表現できない
④ 電話は使わない、電話を聞かれたくない
⑤ 相談する勇気がない、こんなことで相談してもよいか不安

【方向性】
- ✓ こどもにとって、アクセスしやすいもの
- ✓ こどもにとって、使いやすい・分かりやすいもの
- ✓ こどもにとって、負担が少ないもの
- ✓ こどもにとって、使ってよかったと思われるもの

２．こどもの悩みを受け止める諸活動の普及・広報事業

国や自治体並びに民間団体等による、こどもの悩みを受け止める諸活動について、こども・保護者等への普及・広報活動を行う。

実施主体等

【委託先】民間団体等

こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチームについて③

令和７年３月までにプロジェクトチームが行った意見交換等の内容にかかる中間報告

■　中間報告の概要

- プロジェクトチームは、こどもや支援団体等（延べ２７団体）との意見交換を実施。
- こどもの声や現場の知見を基に、課題と対応の方向性を整理。
- こどもが悩みを打ち明けやすい環境づくりに向けた重要な視点を提示。

■　中間報告の概要

1．こどもの声からわかったこと

- 相談しやすさは場所より「関係性・安心感」が重要
- 相談したい相手や方法はこどもによって様々
- 「まず聴いて共感」が最も求められている
- 秘密が守られるかどうかが大きなポイント
- SNS・チャットなど気軽な相談手段のニーズが高い

2．相談における本質的な課題

- 相談窓口はあるが「使いにくい・分かりにくい」
- 大人への不信感（過去に聴いてもらえなかった経験）
- 相談すること自体の心理的ハードル（恥ずかしい・迷惑など）

3．支援側に求められる対応

- まず最後まで話を聴く（途中で解決しようとしない）
- こどもを一人の人間として尊重する
- 秘密を守ることを明確にする
- 状況に応じて「共感」と「助言」を使い分ける
- こどものペースを尊重する

4．ポイント

- 相談だけでなく「安心できる居場所」が必要
- 家庭・学校以外にも頼れる大人の選択肢が必要
- 地域全体で見守る仕組みが重要

■　今後の方向性

- **周知の対象・手法の重点化**
  こどもに直接届く手法（学校・SNS・体験型学習等）を重視、年齢層ごとの理解度に応じた内容・媒体の使い分けを推進
- **既存施策の整理・連携強化**
  教育・福祉・地域活動等の横断的な連携を強化
- **「知る」から「使う」への転換**
  単なる周知にとどまらず、相談窓口や支援制度につながる導線を明確化し、実際につながる仕組みづくりを推進